



2026 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 カンロ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 村田 哲也
 (コード：2216 東証スタンダード)
 問合せ先 取締役常務執行役員 CFO
 財務・経理本部長 佐藤 光記
 (TEL. 03-3370-8811)

通期連結業績予想の修正及び期末配当予想の据え置きに関するお知らせ

当社は、2026 年 7 月 31 日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2026 年 2 月 13 日に公表しました通期連結業績予想を以下のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

業績予想の修正について

(1) 2026 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正 (2026 年 1 月 1 日～2026 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	36,500	4,900	4,900	3,450	81.87 円
今回修正予想 (B)	36,500	4,200	4,200	3,000	71.12 円
増減額 (B-A)	0	△700	△700	△450	—
増減率 (%)	0.0	△14.3	△14.3	△13.0	—
(ご参考) 前期実績 (2025 年 12 月期)	34,771	4,691	4,746	3,378	80.18 円

(2) 修正の理由

売上高につきまして、上期においてはグルメカテゴリーが好調であったハードキャンディ及び新商品が牽引したグミ共に前年を上回る販売実績を残したものの、例年より気温が高く推移したこと等によるのど飴市場の縮小やグミ市場の成長鈍化等の影響により本年 2 月 13 日に発表した予想数値（以下、「期初予想」）を 5 億 45 百万円下回りました。上記経営環境は下期も続くことが見込まれますが、プロモーション施策効果による販売数量増や価格改定効果等により前述の上期未達分を補い、通期では期初予想並みとなる見通しです。

利益面では、上期において中東情勢に起因する原材料価格やエネルギーコスト等の値上がりの影響が第 2 四半期より出始めたこと等により営業利益は期初予想を 1 億 53 百万円下回りました。この影響は下期にも継続することが予想され、全てのコストアップや将来に向けた成長投資を増収に伴う限界利益の増加で吸収することは難しく、下期も期初予想から減益となる見通しです。これを受けた通期の営業利益は期初予想比 7 億円減となる 42 億円、経常利益は 7 億円減の 42 億円、当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は 4 億 50 百万円減の 30 億円の見込みとなりました。

来年度以降も見据え、グミの増産に向けた生産体制の整備（朝日工場グミラインの新設）及び米国市場への展開を進めると共に、更なる生産性向上と、原材料価格の動向に応じた更なる価格設定の見直し等を実施し、収益力の改善に取り組んでまいります。

(3) 期末配当予想について

株主の皆様への利益還元は重要な政策であり、「中期経営計画 2030」においては、配当性向 40%を基本に 1 株あたり 31 円を下限に設定することを株主還元方針といたしました。

上記のとおり通期連結業績予想を下方修正いたしますが、今回の減益の主要因は、包材を始めとしたコストアップと、商品価格改定等対応との時期的なズレにて生じた一時的なものであり、改定後の価格が浸透すれば収益力及び業績は回復するものと考えております。そのため、今期期末配当は期初予想を据え置き、1 株当たり配当金は 18 円とする予定です。

※ 業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上